

# 果たして柿右衛門!?



青い鳥こどもクリニック

引田 満



この器はK医師会のK女史から頂いたものである。2年ほど前であったと思うが、かつての所有者は元医師会員であったかに記憶している。「先生、持ってって」的なノリで私も深く考えることなく頂戴したのだが、医師会事務所で中身を見たところ、純度の高い白地に、独特の朱と青緑を基調に、丁寧かつ精緻に絵付けを施された綺麗な器であった。構図もバランスが取れ美しい。形状から一瞬、灰皿?とってしまったが、箱書きには花器と記されているように思え、中に剣山を入れて花をいけるものではないかと考えた。そしてこの特徴のある色合いの絵付けは決して初めてみる感覚ではなかった。これって柿右衛門じゃないの? 私の祖父は柿右衛門大好き人間で、納得のいくものを手に入れると、こどもの私に、半ば無理やりに見せては、得々と自慢話をして実に楽しそうだった。床の間には普通に柿右衛門の花瓶が置かれていたし、「かきえもん」が



孫である私の脳裏に日常的に刷り込まれていたのは確かだ。今や柿右衛門窯の器は弟子たちによって製作され、オンラインショップで手に入るご時世なのだが、箱書きには現在の15代の祖父にあたる13代柿右衛門の記名があり、真物だとすれば、酒井田柿右衛門本人の制作によるものであろうし、花瓶や大皿ほどの人気はないにせよ、それなりに価値のあるものではないのか? 高級骨董品の慣例に習い、桐の箱に納められてきているのだが、これが微塵の緩みもない精巧な作りで高級感に溢れている。いろいろとインターネットで調べてみたが、朱で柿を模した印が押されているのも特徴であるらしく、

さらに「濁手（にごしで：矢印）」とあるが、これは器の地を純白にするための技法で、13代柿右衛門が得意としたところであるという。このように真物たる条件はいくつか揃ってはいるが、難点がないわけでもない。むしろ大きな問題なのは、高台の裏に柿右衛門の銘がないことだ。頂を極めた高名な陶芸家が自分の作品に銘を残さないということはあり得るのだろうか？ 絵付けはしたものの、その出来に納得がいかなかった？ 弟子の習作が紛れ込んだ？ あるいは贋作？ どうやら「お宝鑑定団」の様相を呈してきたが、骨董品に造詣が深いわけでもなく、私には到底結論を出すことはできず今に至っている。ただ、写真で伝わるかどうかかわからないが、出来栄は素晴らしいと思う。陶芸に通じた

諸兄の助言を（あるいは宣告でも）賜りたいのだが…（医師会まで）。

